

代官所と上下の町並み

江戸時代に、石州街道の宿場町であった上下は、代官所(陣屋)が置かれたことによって地域の政治的な中心地となりました。それに関連して金融業がさかんになり、商業の町としても発展し、現在の町並みの基礎が形づくられたと考えられます。

上下の町並みも歩いてみてね!



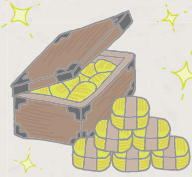
交通のご案内

- JR (福塩線)
 ・福山駅から 約1時間30分
 ・三次駅から 約1時間
- 自家用車
 ・中国やまなみ街道
 尾道松江線
 世羅ICから 約20分



○天領上下代官所跡 (府中市上下町上下466-1)

上下陣屋が、大森代官所の出張陣屋となったことで、大森代官が管理する銀の運用を上下の有力商人がうけおうことになり、金融貸付業がさかんな町になったんじや。「上下銀」とよばれて、広島藩領や福山藩領にも広く及んで、上下の町の発展にもつながったんじや。



拙者、江戸幕府から
 命を受けまい。ただでゴザル!!



県史跡 天領上下代官所跡

上下代官所跡は、江戸時代に、備後・備中(広島県東部・岡山県西部)の幕府領を管理した陣屋(役所)跡です。

元禄 13 年 (1700) から享保 2 年 (1717) までは、幕府が任命した代官が常駐していたので、一般に代官所跡と呼ばれています。

昭和 16 年 (1941) に、「天領上下代官所跡」として広島県史跡に指定されました。

県史跡 天領上下代官所跡

【発行】令和 2 年 3 月 31 日 【編集】府中市教育委員会
 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業により作成しました

天領とは？

幕府領（江戸幕府直轄の領地）だった地域のことです。
幕末から明治期に、幕府領のほとんどが朝廷（天皇）の領地となり、「天領」と呼ばれるようになりました。



文久3年(1863)江戸幕府の郡代・代官所配置図
(村上直・荒川秀俊編「江戸幕府代官史料―県令集覧」吉川弘文館 1975 年から作成)

陣屋とは？

代官が幕府領を管理するための拠点（役所）のことで、施設全体を「陣屋」と呼びました。
役人の住宅や蔵など色々な建物がありました。

代官所とは？

代官がいた陣屋のことを、一般的に「代官所」と呼んでいますが、江戸時代には代官が管理した地域（幕府領）を「御料」「公料」「代官所」などと言っていたようです。

呼び方が変わったんじゃ



上下陣屋（上下代官所）のあゆみ

元禄 11 年
(1698)

福山藩水野家（10万石）が断絶し、旧福山藩領が幕府領となった。
<翌年、岡山藩による検地で、石高15万石と算出された>



石高とは？
米の生産力で土地の価値を表すものだよ。
一石は、約150kg（約1,000合）の玄米のことだよ。

元禄 13 年
(1700)

旧福山藩領は二分されて、5万石が幕府領となり、上下と備中笠岡に代官が置かれた。
甲奴郡・神石郡・安那郡の計71か村（約4万石）が上下代官の支配となり上下陣屋（代官所）が設置された。

享保 2 年
(1717)

上下陣屋支配の幕府領が、甲奴郡・神石郡の計22か村に減り、上下陣屋は、石見の大森陣屋（代官所）の出張陣屋となった。
大森代官配下の役人（3～4名）が派遣された。

お代官様は17年間いらつしやいました～



元禄 13 年支配地域
71か村（甲奴・神石・安那郡）
3万 8536 石余

17年後…



享保 2 年支配地域
22か村（甲奴郡・神石郡）
1万 3091 石余

明治 元年
(1868)

倉敷県になる ～上下陣屋廃止～

明治 2 年
(1869)

上下陣屋の絵図が描かれる。

明治 6 年
(1873)

陣屋建物を校舎にあて小学校「考按舎」となる。
校舎を大改築する（寄付金800円）。
敷地を広げるために、東側の石垣を突き出す。

明治 21 年
(1888)

昭和 16 年
(1941)

「天領上下代官所跡」の名称で広島県史跡に指定。

昭和 29 年
(1954)

合併により、新上下町誕生、敷地内に「天領陣屋跡」石碑建立。

昭和 32 年
(1957)

新上下町役場庁舎落成。

平成 16 年
(2004)

府中市と合併。
府中市上下支所となる。

平成 19 年
(2007)

上下支所が移転。

平成 20～22 年
(2008～2010)

発掘調査を実施。

平成 24 年
(2012)

旧上下支所（上下町役場）庁舎を解体。

中ページを見てね！



校舎を新築したんだ！
石垣も作り直したんだよ☆



明治末頃 上下尋常高等小学校



昭和5年 上下町役場と天領松



昭和32年 新上下町役場と天領松

陣屋時代から立派な松があったのじゃ。天領松と呼ばれたんじゃ！



じょうげ じん や だい かん しょ こん せき 上下陣屋 (代官所) の痕跡 ~発掘調査でわかったこと~

平成 20 年 (2008) ~ 22 年 (2010) に、絵図を手にはっくつちょうさを行った結果、陣屋時代の石段や石垣、建物を区画したとみられる溝や建物の礎石などを確認しました。

また、旧上下支所庁舎解体の際に、建物の下から井戸も見つかりました。
 上下陣屋のようですが、発掘調査からも明らかになってきました。

井戸を発見!

石組の井戸が見つかりました。明治2年の絵図にある井戸の位置に近いので、陣屋時代の井戸の可能性が高いとみられます。



とう みょう ざら しゅつ ど 灯明皿が出土!

陣屋で実際に使用していたとみられる出土品です。

皿の中に油とひもを入れ、火をつけて、明かりを灯したのじゃ。



(北)



(南)

上下支所建物と調査位置図
 (〇〇Tは、調査区の記号です)

く かく みぞ そ せき 建物を区画する溝と礎石!

《4T・9T 溝と礎石》

建物の礎石と、建物の周囲を囲んだか、建物の土台を



区画した可能性のある屈曲した溝が確認されました。周辺からは、火打石や灯明皿も出土しています。

じん や じ だい 陣屋時代の石垣を発見!

《1T 石垣》

石の積み方から、幕末頃に築かれた石垣と考えられます。石段の痕跡も確認されました。



いし がき ぬき とり あと 《11T 石垣抜取跡》

絵図で石垣が東側に突出していた位置で、石垣の基部が部や石を抜いた跡が見つかりました。



確認された石垣から、陣屋跡の規模は、南北70m、東西27mに推定され、絵図にある南北35間 (63m)、東西14間 (25m) とほぼ同じことがわかりました。そして、現在の石垣が、陣屋時代の石垣の石材を再利用して築き直したものであることも確実にわかりました。